

卒業おめでとう

—みなさんの新たな船出によせて—

白門経友会会长・経済学部教授 松丸 和夫

二〇一三年正月の箱根駅伝は、大変残念な結果に終わりました。新たな再出発を多くの学生、卒業生は期待しています。また、一昨年は、三月一日の東日本大震災の影響で卒業式典が中止となりました。当たり前のことが当たり前にできることを喜びましょう。

地の皆様の悲しみや苦しみに引き続き

思いを馳せましょう。大震災の教訓に学ぶこと、これは私たちの今後も持続する責務だと考えます。

去年、みなさんはそれぞれの課題に向かって、本当に汗まみれになつて奮闘されていましたのではないでしょうか。

一昨年の就職協定変更により、企業の新卒採用活動の開始が一二月一日の解禁に変わり、「短期決戦」が叫ばれる中、

早々と企業から採用内定をもらつた人も、公務員採用試験の本番を控え、追い込みで休む暇もなく机に向かっていき込んでいる人もいるでしょう。企業訪問や最終面接で、焦りを感じながら満員電車に揺られ続けた人もいるでしょう。なかなか内定が出ず、卒業後の展望を失い、

それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんはもはや学生ではない。でも人生には完全も完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんの母校となる中央大学関係者の本音です。そして、またいつでも母校に「元気でもどつておいで」と呼びかけたい気持ちです。

よく社会人になると学生の時のように甘くはない、と警句が発せられます。現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題がたくさんあります。問題を解決するために皆さんのこれまでの経験と知識を総動員して下さい。でも、一人だけで悩み、一人で立ち向かおうとしても手強い問題

白門経友会

心が折れ、意欲をなくした人はいませんか。

二〇一三年の春に大学を卒業する皆さんの中には、政権交代後の円安やデフレ不況からの脱出に期待を持つていて、大企業の赤字決算や大規模な人員削減も報道されている昨今です。大学を卒業するけれど、まだ今後の予定が立っていない人、素直に喜べない心境の人

がいることを私たちは知っています。それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんはもはや学生ではない。でも人生には完全も完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんの母校となる中央大学関係者の本音です。そして、またいつでも母校に「元気でもどつておいで」と呼びかけたい気持ちです。

この度ご卒業される新学員のみなさん、母校中央大学と経済学部に誇りを持ち、そして愛して下さい。そしていつも、「ただいま」と元気な姿を私たちに見せて下さい。白門経友会は、いつもみなさんのそばにいて、お役に立てるよう努力します。元気でいてらっしゃい。

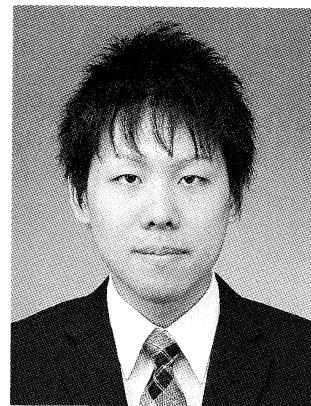
ばかりです。そんなときこそ、これまでの人生で得た友人や先輩、そして大學生の集まりです。第二に、現役の学生も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学生と交流することができます。第三に、経済学部の教職員も構成員になっています。私は、二〇〇九年の六月に会長に就任して以来、こうした白門経友会の構成・成り立ちのありがたさを折に触れ実感しています。

人間は一人では生きられない。一人ではなかなか強くなれない。だからこそ、白門経友会は緩やかなつながりと結びつきを大事にしながら、現役学生から卒業生の大先輩までを包摂する組織としてこれまで二〇余年の歴史を継続してきました。

白門経友会は、第一に経済学部の卒業生の集まりです。第二に、現役の学生も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学生と交流することができます。第三に、

楽しくて有意義な忘年会

渡辺 将大(鳥居鉱太郎ゼミ3年ゼミ長)



めの絶好の機会であり、私自身も普段なかなか接する機会のない教授・OBの方々と様々なお話をさせて頂きました。

この会の最中に、学生と学員間の交流を深めるために「白門経友会」をお題にした謎かけ大会を開催致しました。こちらは兼ねてから私と佐藤文博教授とで何か催しを行おうと計画しており、学生とかわらず学員・学生合わせて25名の参加者が来てくださいました。

平成24年11月30日の常任理事会後に立川の若草茶屋で開催された忘年会では、お忙しい時期にもかかわらず学員・学生合わせて25名の参加者が来てくださいました。鳥居鉱太郎ゼミ、米田ゼミ、佐藤ゼミ、丸山ゼミ、濱岡ゼミの各学生による個性的な自己紹介が行われたのちに、歓談の時間となり、終始和やかな雰囲気の中、学員と学生の間で活発なやりとりが行われました。白門経友会が重視している「縦の繋がり」を作るた

めの絶好の機会であり、私自身も普段なかなか接する機会のない教授・OBの方々と様々なお話をさせて頂きました。

最後には斎藤顧問に審査員をして頂き、OB1名、学生2名の作品が優秀賞に輝き、プレゼントを獲得して終了となりました。

皆さんからもOBと現役学生と のコミュニケーションが深まる大変良い催しだったとご感想を頂き、また次回も引き継ぎできればと思っております。

いたところ、鳥居鉱太郎教授に「謎かけなんてどうだらうか」とご提案頂き、開催に至ることとなりました。

2013年は白門経友会の公式HPの設立も決まり、学生も様々な場面でお手伝いをさせて頂くと思いますが、私自身も一人の学生として、今年度も白門経友会を盛り上げていけたらと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

た。教授陣の方々の手がなかなか上がらない中で、学生が積極的に手を挙げ各自が即興で考えた巧みな謎かけを数多く披露頂きました。(中でも鳥居鉱太郎ゼミの田中ゼミ長の「白門経友会と柔道はどうやらもOB(帯)が重要です」の謎かけには思わず会場から歓声が上がりました)

上

第23回

白門経友会定期総会のご案内

1. 日時 6月1日(土)

2. 場所 中央大学多摩キャンパス

7号館 1回 (予定)

①2012年度事業報告

・決算報告

②2013年度 事業計画

・予算案

③その他

14:40 記念講演

講師 片桐稔晴 経済学部教授

演題 (仮題) 日本の城

5. 16:30 懇親会

—その見方と楽しみ方

会費 7,000円

但しゼミ生は無料です。

13:00より幹事会を開催いたしますので、役員の方は13時までにご参集下さい。

ご挨拶

経済学部准教授
佐々木 創



「それもかなり幸運の偶然」が重なり、気が付けば10年やっているうちに専門家としての地位に立っていた、というのが本音です。

初めまして！佐々木創（ささきそう）と申します。北海道大学で学位取得後、三菱UFJリサーチ＆コンサルティングという民間シンクタンクを経て、昨春（2012年）に着任いたしました。専門はアジア（特にタイ）を中心とした環境政策・環境ビジネス（特にゴミ）を研究しております、専門科目は国際公共政策を担当しております。

「なぜタイのゴミの研究なのですか？」

これは学生から一番よく質

これは学生から一番よく質問されております。もちろん、学術的な意義や意味はあります
が、実際は「本当に偶然。

しかし、ゴミは大変奥が深く、研究し甲斐がある対象だと考えていました。それは私たちで、妻からはすっかり「ゴミ、フエチ」呼ばわりされております。

ちの生活において必ずゴミを排出しています。例えば、毎日の生活に不可欠な家電製品の大半は、アジアで製造され、その過程で現地で産業廃棄物が発生しています。また、使い終わった家電製品が適切なリサイクルルートに排出されなければ、中古品と称して海外に輸出され、リユース（再使用）されるものもありますが、いずれはゴミとなり、不適正なりリサイクルをされて、現地の環境破壊の遠因となっている事例もあります。家電製品に限らず、あらゆる製品とゴミ（再生資源）がグローバル経済社会において流通しているのです。

研究を始めますが、小生の場合は「ゴミ」ですので、当たり前ですが好意的な感情を持つて研究を始めたわけではありませんでした。今ではどこへ行ってもゴミ箱は気になりますし、悪臭の中、ゴミを拾つて生活する子供がいるとうな、目だけでなく鼻も覆いたくなる現場に調査に行き、

適正なりサイクルをされて、現地の環境破壊の遠因となつてゐる事例もあります。家電製品に限らず、あらゆる製品とゴミ（再生資源）がグローバル経済社会において流通しているのです。

分野の政策立案に関係する経済産業省や環境省等の研究会の委員をいくつかお引き受けしたり、国際会議に参加しながら、継続して活動しております。

どこまでリアルに伝え、学生が主体的に課題を見つけ、解決策を考えられるような講義を目指して、2年目も試行錯誤していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

2013年3月10日 第50号
発行 白門経友会常任幹事会
発行人 白門経友会編集委員長
鈴木秀男
〒192-0355 八王子市堀之内817番地
鈴木様方
TEL 042 (676) 8266 代
FAX 042 (674) 8668
E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp
郵便振込口座 00180-7-75368